





## 緒言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀態ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和八年ノ統計書ヲ編纂スルニ至リ、本書纏ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戶口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用途多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノモ尠シトセヌ然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應セシムル所アラトス。

昭和十年三月

# 昭和八年福井縣統計書 第一編

## 凡 例

本編ハ昭和八年又ハ昭和八年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和七年若ハ昭和七年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和八年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說.....	1	36 外地人外國人.....	24
<b>土 地</b>		37 職業別人口.....	25
1 土地總段別.....	4	38 職業別失業者.....	26
2 官有地.....	4	39 產業別人口.....	27
3 民有有租地地積及賃貸價格.....	4	40 職業別人口ノ產業上ノ地位年齡配偶關係.....	28
4 民有無租地.....	5	41 產業別失業者.....	30
5 免租年期地地積及賃貸價格.....	6	42 年齡別失業者(附表世帯主失業ナルトキノ人員別普通世帯).....	30
<b>氣 象</b>		43 人口階級別市町村數及人口.....	30
6 測候所.....	6	44 推計人口.....	31
7 氣壓氣溫及濕度.....	6	45 本籍人口及現在人口並現住戶數.....	31
8 平均氣壓.....	7	46 人口動態總覽(現住地別).....	31
9 平均氣溫度.....	7	47 年齡及身分別婚姻.....	32
10 平均濕度.....	7	48 夫妻相互ノ年齡別婚姻.....	32
11 平均雲量.....	8	49 夫妻相互ノ年齡別離婚.....	32
12 降水日數及降水量.....	8	50 月別出生及死産.....	33
13 降雪日數及期節.....	8	51 年齡階級別死亡(現住人).....	33
14 快晴日數.....	9	52 原因別死亡 (現住人).....	34
15 曇天日數.....	9	<b>交通及通信</b>	
16 暴風日數.....	9	53 官設鐵道線路及敷地.....	35
17 結霜日數.....	10	54 官設鐵道運輸.....	36
18 最多風方位.....	10	55 私設鐵道.....	37
19 風ノ速度.....	10	56 私設鐵道運輸.....	37
20 風ノ平均速度.....	11	57 郵 便.....	41
21 沿海及河川流域雨量.....	11	58 電 報.....	42
22 地方暴風雨信號所.....	12	59 電信線路及線條.....	42
23 暴風雨震位置.....	12	60 電話加入者數.....	43
24 測候用無線電信機.....	12	61 市内電話線路及線條.....	43
25 地震計.....	12	62 市外電話線路及線條.....	44
26 地震計=現ハレタル震動.....	13	63 電話料收入.....	44
<b>戶 口</b>		64 諸 車.....	44
27 世帯人口ノ一(郡市別).....	13	65 海岸延長及港灣.....	45
28 世帯及人口ノ二(構成人員別普通世帯及準世帯並特別調査區人員).....	14	66 港灣ノ狀況.....	45
29 普通世帯及人口(市町村別).....	18	67 燈 臺.....	45
30 住居ノ室數及人員別普通世帯及人口.....	20	68 浮 標.....	45
31 配偶關係別人口(郡市別).....	22	69 船 舶.....	46
32 年齡及配偶關係別人口.....	22	70 港灣入港船舶ノ隻數及噸數.....	46
33 出生地別人口ノ一(郡市別).....	23	71 敦賀浦德間汽船乘客人員.....	47
34 出生地別人口ノ二.....	23	<b>土 功</b>	
35 年齡及出生地別人口.....	24	72 水害員數.....	48
		73 水害損失價額.....	48

74	工事別土木費決算	48
75	工種別土木費決算	48

### 社寺及宗教

76	神社及神職	49
77	寺院及僧侶	49
78	各宗派別寺院	50

### 教育慈惠及褒賞

79	行旅病人	50
80	行旅死亡人	51
81	救護法ニ依ル救護	51
82	社會事業ノ一(感化教育)	51
83	社會事業ノ二(育兒)	53
84	社會事業ノ三(幼兒保育)	53
85	社會事業ノ四(窮民救助)	55
86	社會事業ノ五(職業紹介)	55
87	社會事業ノ六(宿泊救護)	56
88	社會事業ノ七(公設市場)	56
89	社會事業ノ八(公設食堂)	57
90	社會事業ノ九(公益質屋)	57
91	社會事業ノ十(免囚保護)	57
92	軍事救護	57
93	篤行奇跡者	58

### 兵 事

94	壯丁教育程度種別	58
95	壯丁體格檢查	59
96	壯丁身長及體重最高最低	59
97	海軍志願兵	59
98	日本赤十字社社員及年禮金	60
99	愛國婦人會	60

### 議 會

100	貴族院多額納稅議員互選者	61
101	衆議院議員選舉	63
102	縣會議員選舉	64
103	縣會議員選舉無効投票	65
104	縣會及縣參事會	65
105	市會議員選舉	65
106	市會及市參事會	66
107	町村會	66

### 官 公 吏

108	縣廳各部分課	66
109	休職官吏吏員職員	66
110	縣職員(課別)	67
111	市吏員	68
112	町村吏員	69

## 財 政

113	縣市町村水利土功組合歳入歳出	70
114	直接稅負擔(決算)	70
115	國 稅	70
116	地 租	71
117	所得稅	72
118	家督相續稅	72
119	遺產相續稅	74
120	第三種所得稅種類別決定額	74
121	織物消費稅	74
122	營業收益稅	76
123	酒造稅	76
124	國稅滯納人員及金額	78
125	租稅外國庫收入	78
126	國庫支出縣經費	80
127	縣歳入	82
128	縣歳出	82
129	縣 稅	84
130	縣稅滯納處分	85
131	特別會計ニ屬スル縣歳入歳出	86
132	福井市歳入	86
133	福井市歳出	87
134	福井市稅	88
135	福井市瓦斯事業費歳入	88
136	福井市瓦斯事業費歳出	88
137	福井市水道事業費歳入	89
138	福井市水道事業費歳出	90
139	町村歳入	90
140	町村歳出	92
141	町村稅	94
142	普通水利組合歳入	94
143	普通水利組合歳出	95
144	水害豫防組合歳入	96
145	水害豫防組合歳出	96
146	縣有財產ノ一	97
147	縣有財產ノ二	98
148	縣有財產ノ三	98
149	福井市基本財產	98
150	町村基本財產	99

### 其 ノ 他

151	瓦 斯	99
152	瓦斯製造高及消費高	99
153	瓦斯火口數及料金	100
154	令達公布件數	100
155	收受發送文書件數	100

# 總 說

## 位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十五度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦蘆ト相對ス。

## 地 勢

越前ハ四面山ヲ繞シ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテニ脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ニ走リ大日、油坂、龜帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ケ嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈鏡ノ諸山ト爲リ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ高峯點ハ二ノ峰ニシテ加賀飛驒ノ境ニ聳エ一千九百六十二米白山火山嶽ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟠屈セル一脈アリテ國見、鷲巢、越知ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激浪岩ヲ嚙ムノ地多ク北端徐斯盡クル所僅ニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ嶺ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千俣ノ溪谷ヲ奔リテ隘所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ルルニ及ビテ流域ニ帶シ灌漑ス平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐穰ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、ハツ峯西方ニ青葉山等ヲ峰嶺國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ少ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線、總延長百九十四軒ニ達シ嶺北沿岸ニ帶ハ屈曲ニ乏シク港灣ノ見ルヘキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚ダ多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差シテ複雜極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ルー線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來斷層、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱 灣入アリ裏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

## 廣 袤

總面積四千八百方軒ノ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狹ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ。然レトモ本縣ハ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニ利用面積多シ。

## 土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬五千六百七十一町三段、内國有

地五千四百六十二町六段、民有地二十三萬二千二百八十七段ナリ。民有有租地ハ十八萬三千四百四町九段歩ニシテ民有地ノ約八ニ當リ民有無租地及免租年期地ハ四萬六千八百三町八段ナリ。國有地ハ山林四千七百四十四町三段、公私立學校及官公署敷地七百十八町三段ナリ。無租地ハ保安林四萬四千四百町歩、社寺地百五十三町四段、公私立學校及諸官衙公署敷地百十八町八段墳墓地百八十一町九段、用悪水、溜池、砂防地、井溝、堤塘、道路等ハ千二百六十三町五段、其ノ他ノ土地二百七十一町九段ナリ。年期地ハ總テ四百十四町三段歩アリ。

## 氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ圍レタル坵勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラレル傾向ニ在リ。尙溫度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ殊ニ冬季ハ積雪多ク各種産業ニ影響スル處多シ。昭和八年十二月中ノ平均濕度ハ八十九度ニシテ同年中ノ平均濕度ハ八十二度ナリ。氣溫ノ最高ハ七月ノ三十七度六分ニシテ最低ハ二月ノ零下九度一分ナリ。又降水日數ハ一月ニ最モ多ク二十九日、十二月ハ二十八日、三月ハ二十六日、二月、十月ハ各二十三日、其ノ他ノ月ニ在リテモ毎月十日ヲ降ルコトナシ。同年中ノ降水日數ハ二百二十二日ニシテ雨天ハ殆ンド三分ノ二ヲ占ム。降水量ハ一月、七月、十月、十二月ニ最モ多ク何レモ二百耗以上ニ達シ一年間ヲ通スレバ實ニ二千六百五十二耗ヲ算ス尙昭和七年十二月八日初雪、昭和八年四月二十七日終雪ナルガ故ニ降雪期間百三十日ニ及ヒ最深積雪三尺二寸ニ達セリ。又昭和八年中ノ快晴日數ハ僅ニ二十八日、曇天百九十九日、暴風三日、結霜日數五十一日等ナリ(福井測候所ノ調査ニ依ル)

## 戶 口

### 世 帶 及 人 口

昭和五年十月一日現在ノ本縣一市一郡ノ世帶總數ハ十二萬八千三百八、總人口ハ六十一萬八千四百四十四人ナリ。總人口中男三十萬四千五百二十五人、女ハ三十一萬三千六百十九人ニシテ女百人ニ付男九十七人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口六千四百四十五萬五人ニ比較スレバ0.96%ニ該リ府縣中第四十四位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就イテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

總人口六十一萬八千四百四十四人ヲ大正十四年ノ五十九萬七千八百九十九人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬二千四百四十五人、割合ニ於テ3.4%ノ増加ヲシテ、人口減少ヲ示スタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ對比スレバ著シキ人口増加ト言フベキモ、全國平均増加割合7.9%ニハ猶遠ク及バズ。而シテ大正九年乃至大正十四年及大正十四年乃至昭和五年ニ於ケル出

生ハ前期ニ於テ十一萬七千三百三十五、後期ニ於テ十萬五千八百五十九、死亡ハ前期ニ於テ八萬一千六百十、後期ニ於テ七萬五千六百六十六ニシテ人口ノ實増加ガ之ニ及ハス、殊ニ前記ノ如キ却ツテ人口ヲ減少セルハ來住ニ比シ往住ノ著シク超過セルヲ示スモノナリ。

人口ノ分布

次ニ人口ノ縣内分布ヲ見ルニ六萬四千百九十九(10.4%)ハ福井市ニ、其ノ他ハ郡部ニ在リ。各郡中人口ノ最多キハ坂井ノ九萬八千三百七十五(15.9%)ニシテ、大野ノ七萬七千九百一十一(12.5%)、今立ノ六萬七百五十二(9.8%)、丹生ノ六萬三百三十七(9.8%)、遠敷ノ四萬六千四百九(7.5%)之ニ亞ギ、大飯ノ一萬八千六百六十三(2.9%)最モ少シ。市郡ノ人口増減ヲ檢スルニ、前期ニ於テ足羽、吉田、坂井、大野、今立丹生及大飯ノ七郡、後期ニ於テ丹生及大飯ノ二郡ノ減少シタルヲ除ケバ、他ハ何レモ兩期ヲ通シ其ノ人口ヲ増加シタリ。最近五年間ニ於ケル人口増加ノ最モ大ナルハ足羽ノ四千八百四十二ニシテ、福井市ノ四千二百五十六、坂井ノ二千九百五十、吉田ノ二千七百五十九、敦賀ノ二千七十六順次之ニ附ケ然レドモ之ヲ増加割合ヨリ見ルトキハ足羽ノ13.6%最モ高ク以下福井市ノ7.1%吉田ノ7.0%敦賀ノ5.1%、南條ノ4.2%等ノ順序トス。

人口ノ密度

本縣ノ面積4,017,969方呎ヲ以テ總人口六十一萬八千四百四十四人ヲ除スルトキハ一方呎百五十四人ト爲リ、全國平均百六十九人ヨリ稍々低シ。市郡ノ人口密度ヲ檢スルニ、福井市ハ一萬三千七百三十八人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田ノ二百八十四人最モ高ク、足羽ノ二百七十三人、坂井ノ二百五十二人、敦賀ノ二百四十人、今立、丹生ノ各百七十五人順次之ニ亞ギ大野ノ五十九人最モ低シ。

人口動態

昭和七年中ノ婚姻ハ五千八百二十八人、離婚七百二十九人ニシテ出生ハ男一萬八千三百三十四人、女一萬二千五百五十九人計二萬九千九百三十三人ニ達シ男女ヨリモ五百七十五人多ク生産シタリ同年中死亡セルモノハ男七千四百三十人、女七千七百六十二人計一萬五千二百九十二人ナルカ故ニ出生、死亡ノ差ハ五千九百一人ノ自然増加ト爲リ、前年ニ比シ五百九十九人ノ増加ヲ示ス。尙最近十箇年間ニ於ケル平均ハ年五千九百九十九人餘ノ増加ヲ示ス。

原因別死亡

昭和七年中ニ於ケル死亡原因別ヲ示セバ死亡者ノ千中其ノ最高率ハ下痢及腸炎ノ百五十九人六分ニシテ之ニ亞クハ其ノ他ノ疾患九十九人五分、肺炎及氣管支肺炎八十九人、老衰七十六人一分、肺結核六十九人二分、畸形先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患六十三人九分、腦出血及腦軟化六十三人二分等ハ最モ著シキモノナリ。

交通

道路

交通ノ狀況ノ國道二路線、府縣道二百七路線此ノ總延長百八

十九萬九千九百九十二米ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ或ハ幅員狹少ト爲レルヲ以テ毎年之カ改良ニ比較的多額ノ經費ヲ投シツツアリ。

鐵道

鐵道ノ總延長三百三十五軒餘ニ達シ、北陸本線、小濱線、三國線ノ外ニ私設鐵道七線アリ。更ニ計畫中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見ルトキハ交通上裨益スル所大ナルベシ。

諸車

諸車ハ昭和八年未現在ニ於テ馬車八百五十三臺、牛車九十八臺、荷車二萬七千九百三十九臺、人力車二百十五臺、自轉車五萬五千五百九十臺、自動車六百十三臺、其ノ他ノ車二十七臺總計八萬五千三百三十五臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的ニ自動車ハ漸進的ニ増加シ人力車ハ自然減少ヲ示セリ。

社寺及宗教

神社及神職

昭和八年末本縣ノ神社總數ハ千六百七十四社、神職百九十八人アリ内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十五、郷社四十八、村社千二百六十八、無格社三百二十七社等ナリ。

寺院及僧侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和八年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十三、僧侶千五百九十九人ニ達シ寺院一ニ付世帯數僅ニ七十七ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ真宗八百七十一最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞クハ曹洞宗二百七十二、日蓮宗百三十八、天臺宗百十、淨土宗百五、臨濟宗八十三、眞言宗六十二、時宗二十、黃蘗宗二等ナリ。

兵事

昭和八年ノ壯丁體格検査人員ハ六千五百二十人、内甲種千八百七人ニシテ總員ノ二割八分ニ當リ第一乙種四百九十七人(八分)、第二乙種千三百六十四人(二割一分)ト爲ル。又丙種二千三百五十七人、丁種四百九十三人、戊種二人此等ヲ併セテ四割三分ニ當ル。教育程度ハ高等學校卒業以上及同等ノ者二百二十四人、中學校卒業及同等ノ者六百八十六人、高等小學校卒業及同等ノ者四千二十六人、尋常小學校卒業及同等ノ者千四百四十三人、尋常小學校未卒業及不就學者百四十一人ニシテ尋常小學校未卒業及不就學者ハ漸次其ノ數ヲ減シツツアリ。又検査人員中身長ノ最高ハ一米八二五、最低一米三八三、体重ノ最重ハ八三斤四五、最輕ニ二斤八〇ナリトス。

官公吏

縣職員

昭和九年七月一日現在ノ本縣職員ハ千五百三十五人ニシテ其ノ俸給年額ハ九十一萬二千六百六十七圓ト爲ル。内勅任一人、奏任二十一人、風待遇者四十五人、判任百五十三人、同待遇者七百十三人、縣吏員三百十三人、傭員(雇員ヲ含ム)二百



四十七人、囑託四十二人等ナリ。

市 吏 員

昭和八年末現在ニ於テ市長、助役、収入役各一人、主事二人、技師三人、書記四十九人、技手十五人、事務雇三十四人、囑託六人、總數百十二人ニシテ此ノ俸給七萬四千八百二十三圓ナリ。

町 村 吏 員

昭和八年末現在ニ於テ町村長百六十七人、助役百六十六人、収入役百五十六人、區長二千六十七人、同代理者千九百十四人、書記六百八十四人、事務雇三十八人、書記補二十九人、技師員三十二人、常設委員七百三十九人、其ノ他三人、總數五千九百八十七人ト爲リ内各職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十六萬千五百八十三圓ナリ。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過キザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年度ニ至リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルノ必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亙リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩ニ伴ヒ益財政ノ膨脹ヲ來タスニ至レリ。加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來タシ縣費ハ愈膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ依テ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民ノ福利増進上已ムヲ得ザルモノ等アル爲昭和八年度ノ決算ハ九百七十七萬七千九百四十圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度ノ決算ニ比スレバ百八十二萬二千三百七十一圓ヲ増シ更ニ十年前ノ大正十二年度決算五百二十六萬八千七百三十一圓ニ比シ三十九萬九千二百九圓ノ増嵩ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和八年度ニ於テ市費六十三萬二千八百三十四圓、町村費五百八十四萬七百六十九圓（何レモ豫算）ニシテ、之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレバ市町村ヲ通シテ實ニ約二十一倍ニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、產業其ノ他各般ノ施設ニ迫ラレ自然膨脹ヲ餘儀ナカラシメタルニ外ナラズ。

諸 稅 負 擔

昭和八年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅百八十一萬八千二十一圓、縣稅總額三百十九萬八千六百六十三圓、市町村稅三百十三萬四千九百八十七圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ觀ルニ直接國稅十四圓二十六錢、縣稅二十五圓八錢、市町村稅二十四圓五十九錢ト爲ル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣瀝水極メテ深ク且ツ暗礁砂洲等ノ障害物ナキ爲大船巨舶ト雖モ運航自在且碇繫安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬圓ヲ投シテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次テ明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令ノ公布セラルルヤ亦其ノ一ニ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ヒ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續事業トシテ工費八十萬圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長、棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮標ノ設置ヲ竣ベタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十一年度ヨリ直轄工事ヲ起シ爾來十箇年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投シテ昭和七年三月竣工セリ。次ニ歐洲ノ戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頽ヲ來シ其ノ後甚キ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和八年中當港ヨリノ移出ハ四萬三千八百四十七噸。價額二百八十二萬九千八百九十五圓、移入ハ二十四萬四千九百五十一噸、此ノ價額千三百四萬四百七十九圓ニシテ移出ノ重ナルモノハ雜貨及製成品トス。雜貨ハ鐵道便ニ依リ京阪地方ヨリ輸送シ來リ北海道、北鮮（元山、城津、清津）露領亞細亞及中華民國方面ニ、製成品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノト縣内產トヲ併セ北海道及北鮮地方ニ移出セラル。移入ノ重ナルモノノ内石炭ハ北海道及九州地方ヨリ移入シ多クハ鐵道用炭トシ其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消化スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚精類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ縣内ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線一圓ニ移出セラルル狀況ニ在リ。